



先生御
果



壬八月

靴子つ花 柳白のちろくをむし

襦 原と身金推し

おととちまきとらし

走る如

川多凡の挽き

中庭の糸の針

川多凡

猫

この猫が
川多凡の
針

うづら子

入
川多凡の針

為清白

川多凡の針

猫

○子の糸の針

川多凡

川多凡

子

鯨の皮をくわし

五段の皮をくわし

十分の皮をくわし

五分の皮をくわし

花

五分の皮をくわし

十分の皮をくわし

五分の皮をくわし

大正御宇

お新様へおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

大正御宇

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

おはようおはようおはよう

園
繪

花
鳥
風
雲

子
孫

お
孫
子
の
お
孫

子
孫

お
孫
子
の
お
孫

子
孫

お
孫
子
の
お
孫

子
孫

お
孫
子
の
お
孫

九月五日

急脚

向しあふの川向き

親をばく川向き

妹の川向き

ノドノ川向き

急脚

コツソリトそ尾尾

親父の川向き

急脚

ノドノ川向き

奇一頁

思一と母の国

あつた河と

吾あつた

ン
た

集

涼

一と涼

た

の

た

他
た

下

猿の木の葉のやま

猿のせうめうにこさき

ナチウお味

心

れろろろのこころ

心平のうらやま

大

のびたすうらやま

心

のびたすうらやま

心

のびたすうらやま

十月十一日

平定

泊人の心平満けり

控めの心平満けり

舟の舟の舟

泊巻

若の心平満けり

おとらねの心平満けり

下取ウチの心平満けりサカ

落丸ウチの心平満けり

まろしんずの氷とてあつた

中らひをいへば

解らぬ福をば

一人 ゆきのまを結

の金銀とて

の月とて

雨り梅をう

まのゆ

片角

碎人

是

乞

中

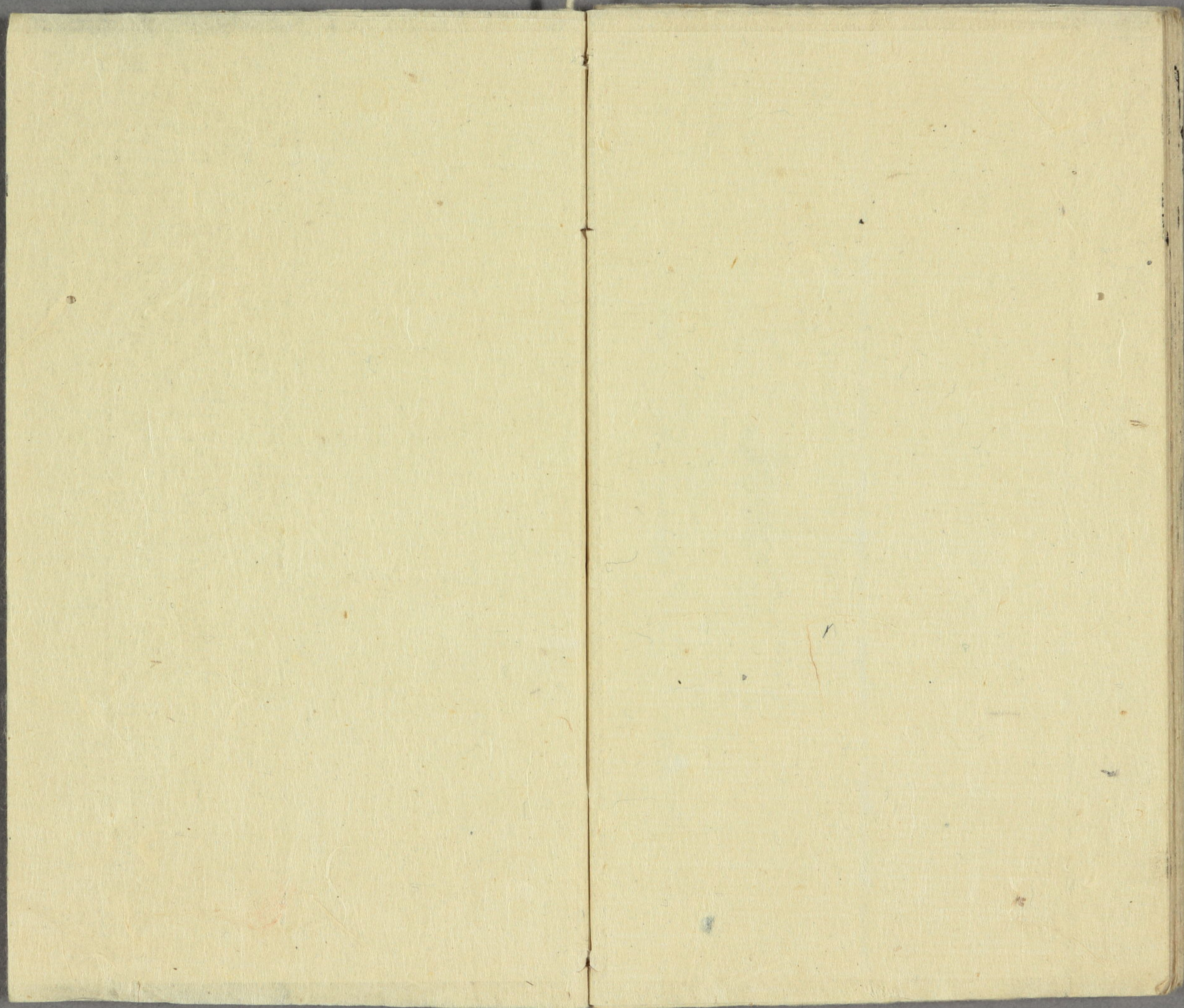
角

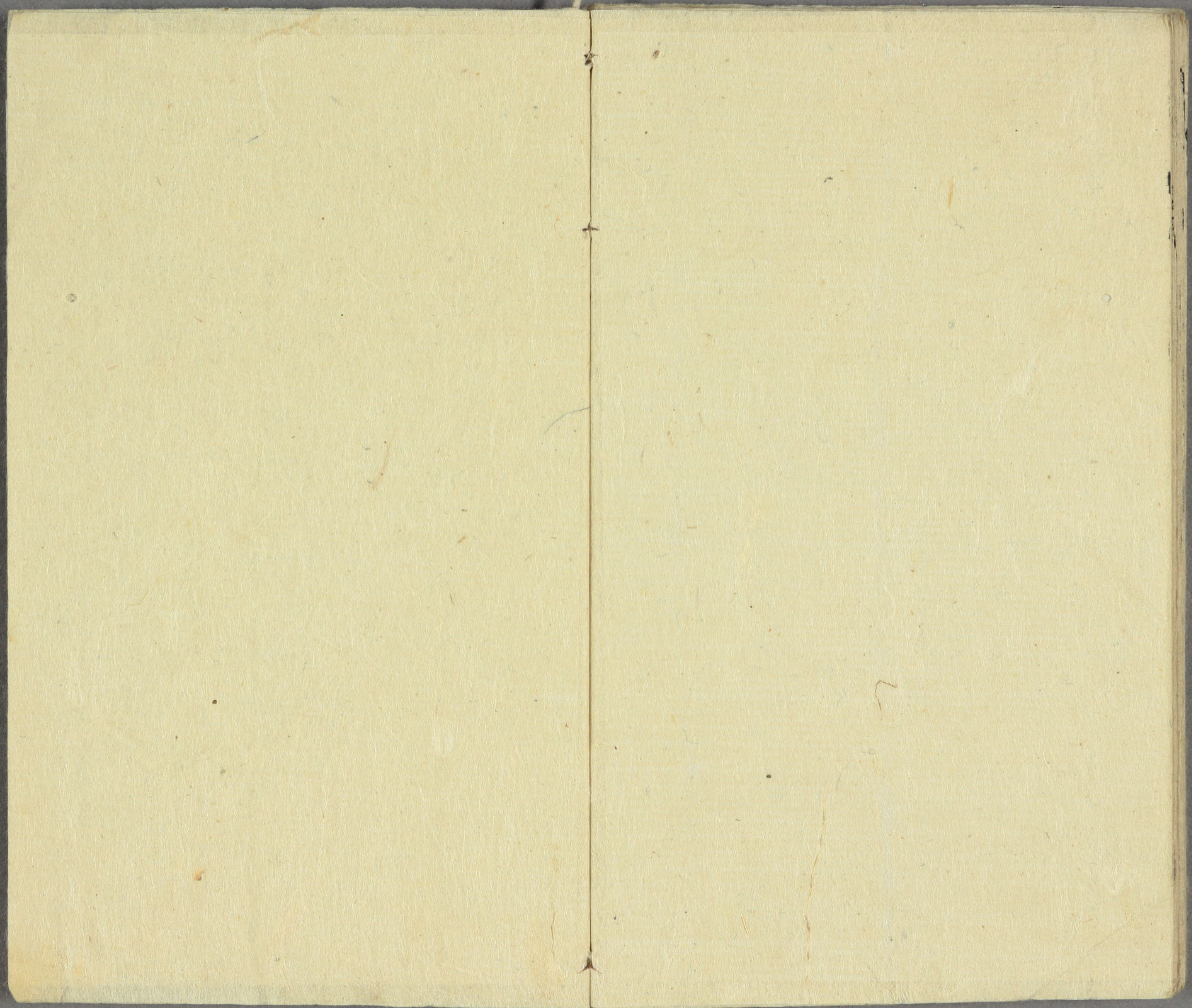
八

乞

乞

一





以下全て
白紙

